

2018/11/16

柏の景気情報（平成30年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年10月分）

○ 調査期間：平成30年10月26日～平成30年11月5日

○ 調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	19	43.2%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	44	19	43.2%
サービス	35	16	45.7%

○ 調査方法と調査表：下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年10月の調査結果のポイント】

《業況DIは回復傾向。先行きも不透明感残すが回復の動き》

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が7.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.2(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に建設業▲10.5(同▲22.2)、サービス業▲6.2(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲36.8(同▲33.3)である。

【建設業】からは「消費税UPの発表により、駆け込み需要の兆し」(一般土木建築工事業)、「9月決算の当社、初の決算賞与を職人さんに出すことが出来た。これからも心を引き締めて暖かい畳を届けていきたい」(内装工事業)、「調査票の件。質問事項が業種によってかなり違い、1か月の短期間で回答を出すのは難しい。商工会ではデータを取りたいのだろうが、もう少し出てきたデータが参考になるといい」(一般土木建築工事業)、「5月からずっと売上減少。一時的に忙しい時はあるものの、全体的に忙しさは感じられない。ダラダラと施工が進んでいるような感じで、同業他社も忙しさは無いと言う。材料仕入れ先、外注先からも仕事が無いからと営業電話が多い。毎年年末に向け職人さんの手配が大変な時期だが、今年は比較的段取りがスムーズ。その分売上の伸びも無さそう」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは「冬季需要の準備の為の受注が増え、生産、出荷が増加。製品によっては一時的にバックオーダーを抱える状況に。慢性的な人手不足が原因で安定的な注文が見込めないところがあり、ここ数年少しずつではあるが売上が落ちてきている客先がある」(自動車付属品製造業)、「イベントが年末に向けて動き出した感がある」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは「9月の天候不順により大幅下落した分、取り戻した感がある。秋1番商品は残し気味。10月下旬よりジワジワ客が増加」(婦人・子供服小売業)、「国産新酒ヌーボーは前年通りの売上だが、一般定番品の受注が減少。10月はイベントが多い月。家飲みが減った可能性がある」(食料・飲料卸売業)、「賑わいはあるが客単価が下がっている為、全体の売上は落ち込んでいる。複数税率についての対応が今から不安」(各種商品小売業)、「採用の計画はしているものの、応募者数が非常に少なく人員不足の状況。食品は価格に対して非常に敏感に反応がある」(各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは「ドライバー不足は変わらず」(一般貨物自動車運送業)、「秋になってからお客様や、同業者からの引き合いが増加。価額に割安感がある物件は売れ行きが早く、土地に対する需要も強い。事業用の物件の買い希望も根強い。全体として動きが出てきた」(不動産管理業)、「賃貸家賃相場は商業系、住居系共に安定。当時の下げ圧力は感じない」(不動産賃貸・管理業)、「柏駅周辺の不動産賃貸は順調。建物は使ってなんぼ。本当にそごう跡地はもったいない」(不動産賃貸業)、「8月9月とやっと前年対比クリアできたが、10月は大幅に減少。祭日等、お客様の客単価、客数とも減少した。11月分は開店セールまで売上を確保したい」(酒場・ビヤホール)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不透明

各業種より、「医療向け建材の受注見通しが不透明。輸入製品の影響も考えられる」(特殊産業用機械)、「業況は経済優先の政策、改革流れと思われているが、下支えの零細企業には明日をも知れぬ感懐がある」(印刷業)、「都内の工事が増加しているが、いつまでか」(卸売業)、「仕事案件多め、ただ先々不安は隠せず」(ソフトウェア業)、「米中貿易戦争、その裏に潜む不気味な世界的政争の現実。完全に冷たい逆風が日本にも感じられる10月景気になってしまった。12月来年度は借入減償、身軽な経営姿勢に変化、現実を見つめないと我が身に迫る環境になろう」(投資顧問)との声が寄せられた。

◎経費増加

各業種より、「業況は好転しているようにみえるが、実情は厳しく、諸経費・雑費の増加で利益が減少。品質保持に努める」(電気工事業)、「ナフサの価格高騰等により原材料、購入品の多くが値上げされる状態が続いている」(機械・同部品製造業)、「様々な要因で色んな原材料の高騰が続いている。年末に向けての懸念材料」(菓子・パン小売業)、「天候不順等による原材料の仕入れ単価上昇。今後にも不安」(日本料理)、「軽油単価の高止まりが収益に影響」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲6.6
6月	▲21.1	±0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
7月	▲30.9	▲21.0	▲25.0	▲54.5	▲14.2
8月	▲11.4	▲5.8	△7.1	▲37.5	△6.6
9月	▲20.0	▲22.2	▲12.5	▲33.3	▲6.6
10月	▲12.8	▲10.5	△6.2	▲36.8	▲6.2
見通し	▲14.2	▲5.2	±0.0	▲47.3	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成30年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が7.2ポイント縮小した。

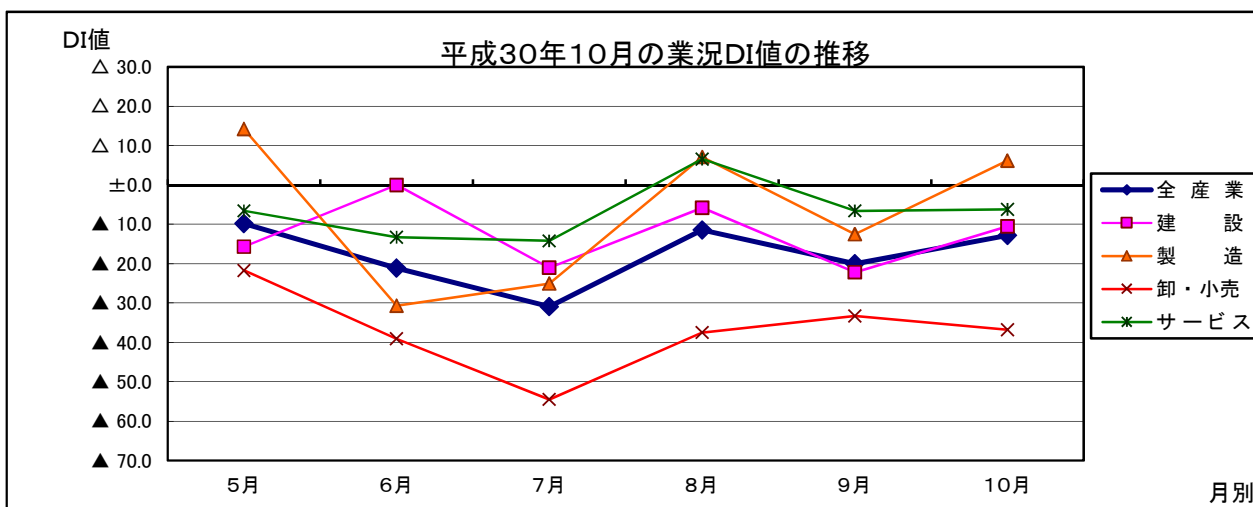
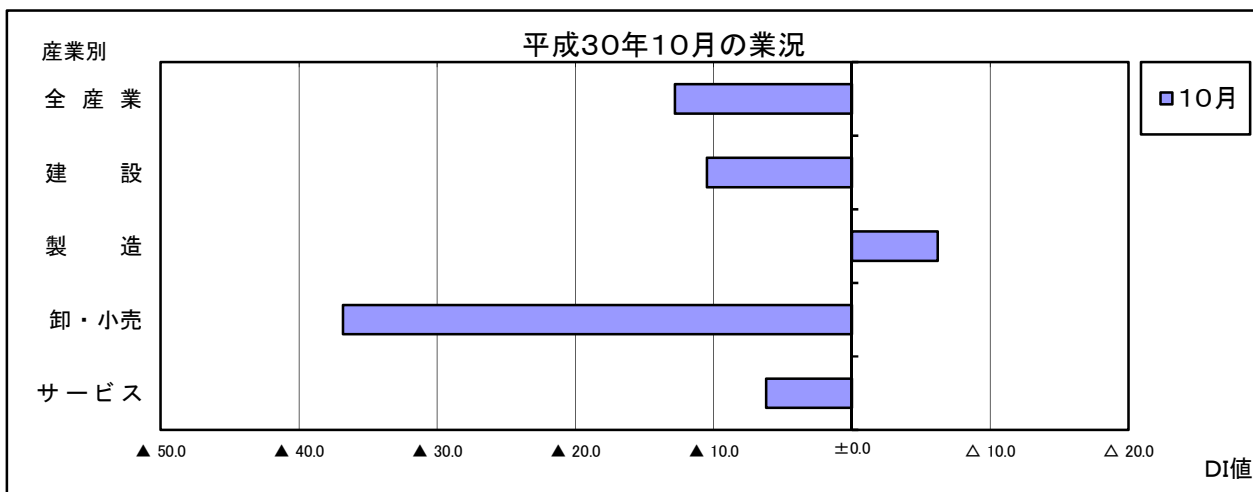
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.2(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に建設業▲10.5(同▲22.2)、サービス業▲6.2(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲36.8(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.2(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が1.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲20.0)、製造業±0.0(同▲6.2)、建設業▲5.2(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲47.3(同▲28.5)である。

平成30年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲9.8	▲21.1	▲30.9	▲11.4	▲20.0	▲12.8	▲14.2(▲15.7)
建設	▲15.7	±0.0	▲21.0	▲5.8	▲22.2	▲10.5	▲5.2(▲5.5)
製造	△14.2	▲30.7	▲25.0	△7.1	▲12.5	△6.2	±0.0(▲6.2)
卸・小売	▲21.7	▲39.1	▲54.5	▲37.5	▲33.3	▲36.8	▲47.3(▲28.5)
サービス	▲6.6	▲13.3	▲14.2	△6.6	▲6.6	▲6.2	±0.0(▲20.0)



【平成30年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲10.0)となり、変わらなかった。

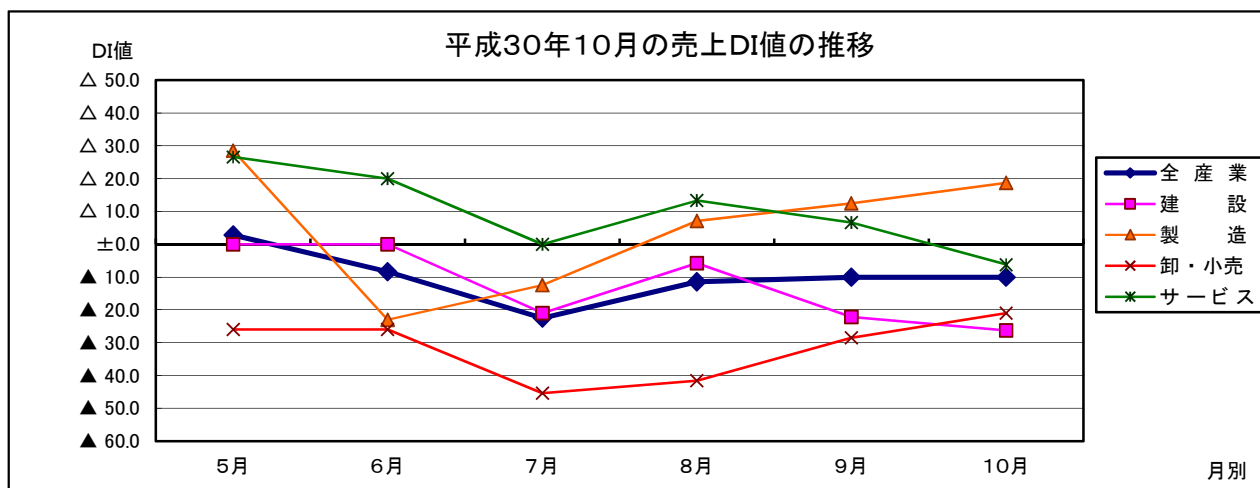
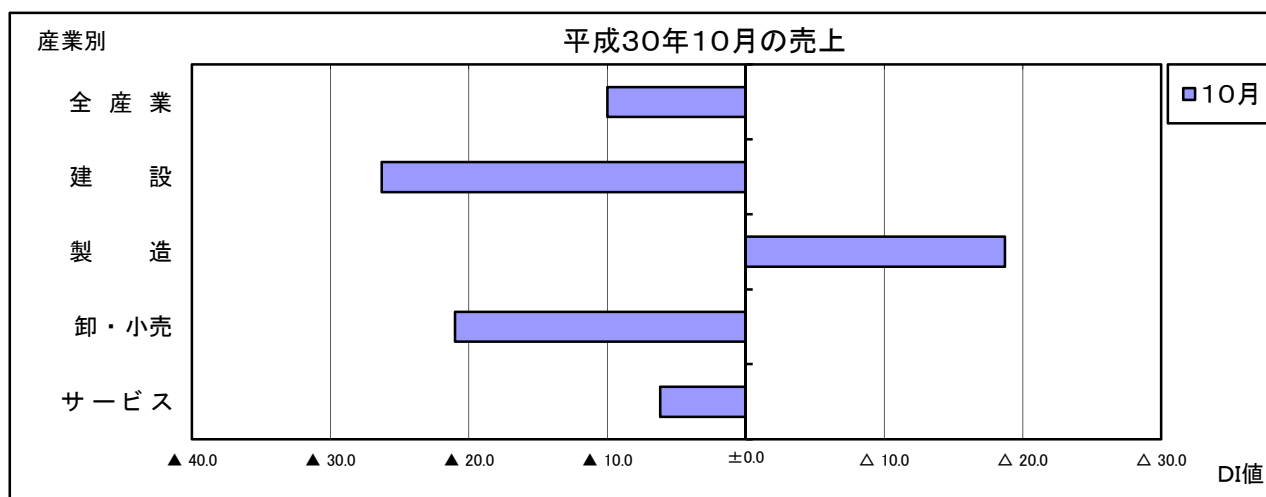
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△18.7(同△12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲21.0(同▲28.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.2(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲26.3(同▲22.2)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.4(前月水準▲4.2)となり、マイナス幅が7.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(同▲12.5)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲10.5(同△11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲36.8(同▲14.2)である。

平成30年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	△2.8	▲8.4	▲22.5	▲11.4	▲10.0	▲10.0	▲11.4(▲4.2)
建設	±0.0	±0.0	▲21.0	▲5.8	▲22.2	▲26.3	▲10.5(△11.1)
製造	△28.5	▲23.0	▲12.5	△7.1	△12.5	△18.7	△6.2(▲12.5)
卸・小売	▲26.0	▲26.0	▲45.4	▲41.6	▲28.5	▲21.0	▲36.8(▲14.2)
サービス	△26.6	△20.0	±0.0	△13.3	△6.6	▲6.2	±0.0(±0.0)



【平成30年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14. 2(前月水準▲24. 2)となり、マイナス幅は10. 0ポイント縮小した。

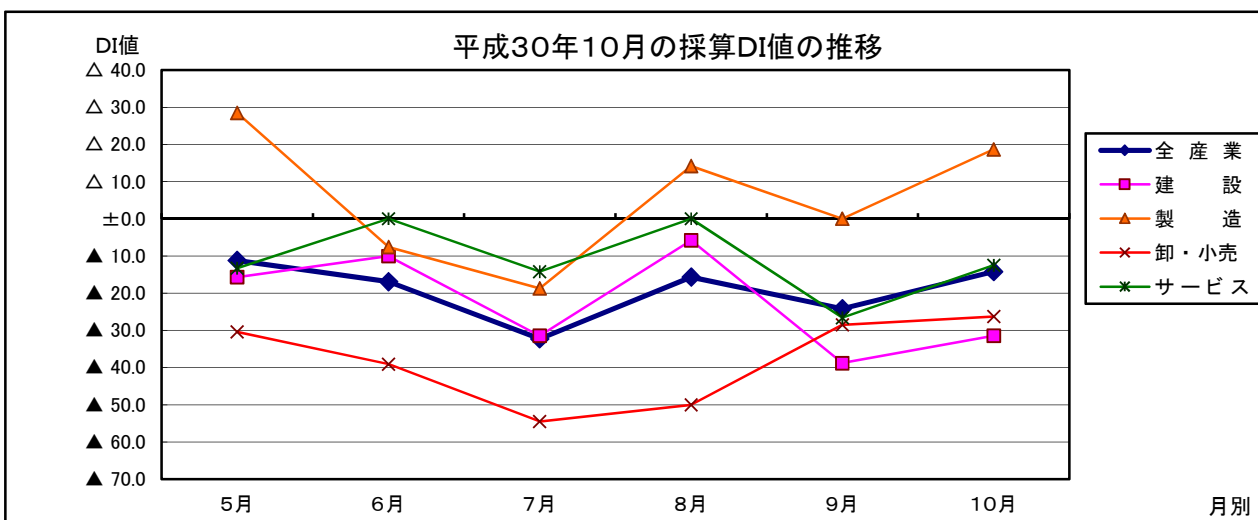
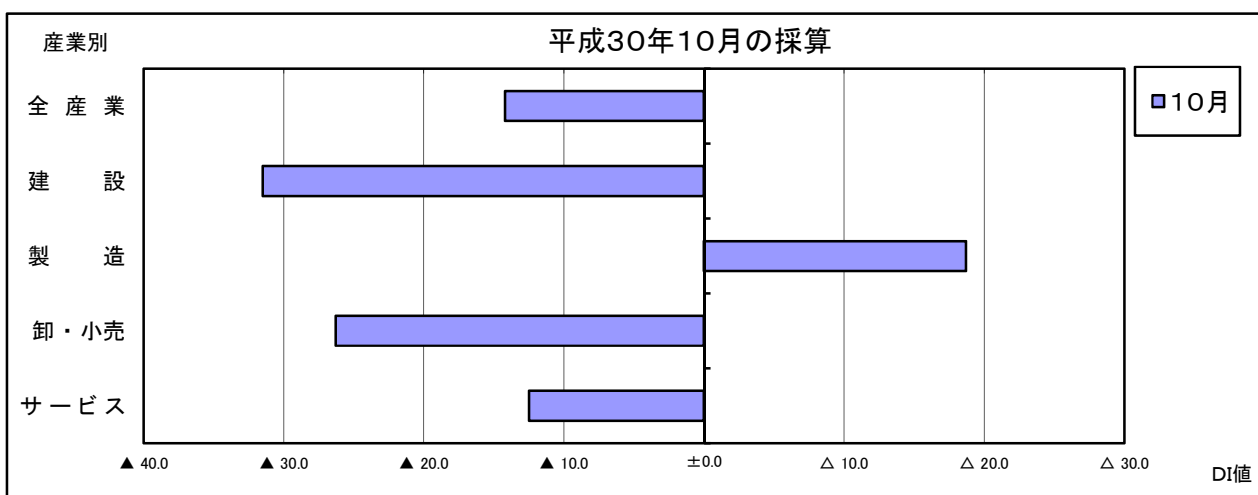
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△18. 7(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲12. 5(同▲26. 6)、建設業▲31. 5(同▲38. 8)、卸小売業▲26. 3(同▲28. 5)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17. 1(前月水準▲10. 0)であり、マイナス幅が7. 1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0. 0(同▲12. 5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36. 8(同▲19. 0)、サービス業▲12. 5(同±0. 0)、建 業▲15. 7(同▲5. 5)である。

平成30年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全 産 業	▲ 11.2	▲ 16.9	▲ 32.3	▲ 15.7	▲ 24.2	▲ 14.2	▲ 17.1 (▲ 10.0)
建 設	▲ 15.7	▲ 10.0	▲ 31.5	▲ 5.8	▲ 38.8	▲ 31.5	▲ 15.7 (▲ 5.5)
製 造	△ 28.5	▲ 7.6	▲ 18.7	△ 14.2	±0.0	△ 18.7	±0.0 (▲ 12.5)
卸・小売	▲ 30.4	▲ 39.1	▲ 54.5	▲ 50.0	▲ 28.5	▲ 26.3	▲ 36.8 (▲ 19.0)
サ ー ビ ス	▲ 13.3	±0.0	▲ 14.2	±0.0	▲ 26.6	▲ 12.5	▲ 12.5 (±0.0)



【平成30年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.7(前月水準▲42.8)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。

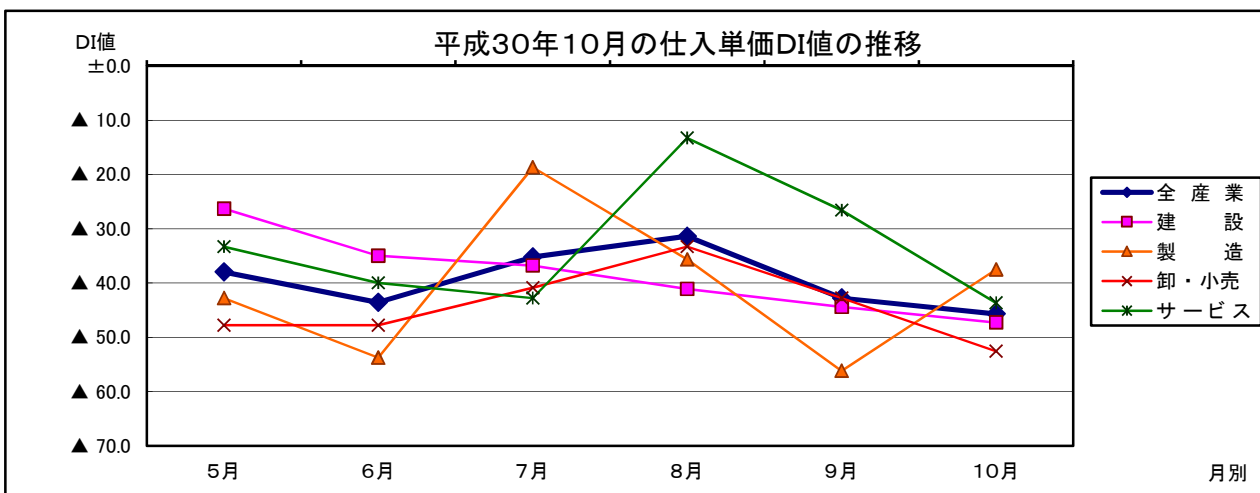
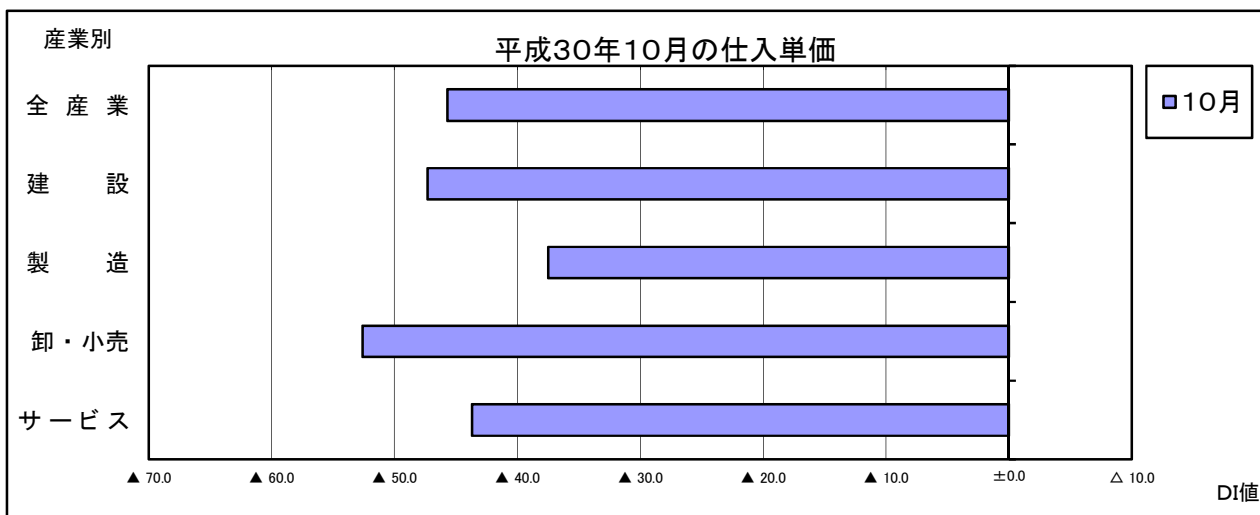
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲37.5(同▲56.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲26.6)、卸小売業▲52.6(同▲42.8)、建設業▲47.3(同▲44.4)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.1(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が7.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同▲50.0)、卸小売業▲31.5(同▲38.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲13.3)、建設業▲36.8(同▲33.3)である。

平成30年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲38.0	▲43.6	▲35.2	▲31.4	▲42.8	▲45.7	▲27.1(▲34.2)
建設	▲26.3	▲35.0	▲36.8	▲41.1	▲44.4	▲47.3	▲36.8(▲33.3)
製造	▲42.8	▲53.8	▲18.7	▲35.7	▲56.2	▲37.5	▲12.5(▲50.0)
卸・小売	▲47.8	▲47.8	▲40.9	▲33.3	▲42.8	▲52.6	▲31.5(▲38.0)
サービス	▲33.3	▲40.0	▲42.8	▲13.3	▲26.6	▲43.7	▲25.0(▲13.3)



【平成30年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△27.1(前月水準△22.8)となり、プラス幅が4.3ポイント拡大した。

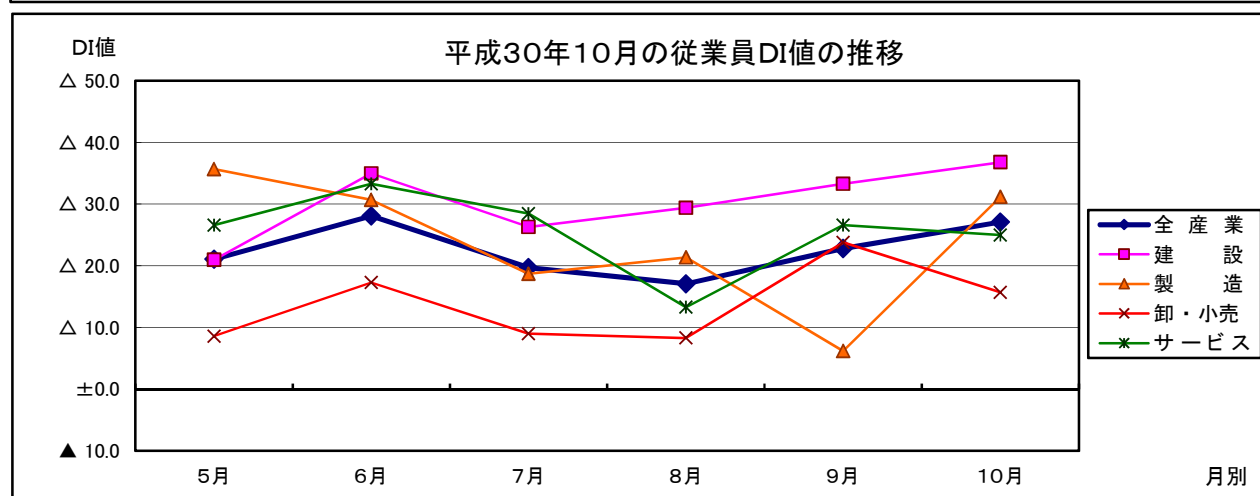
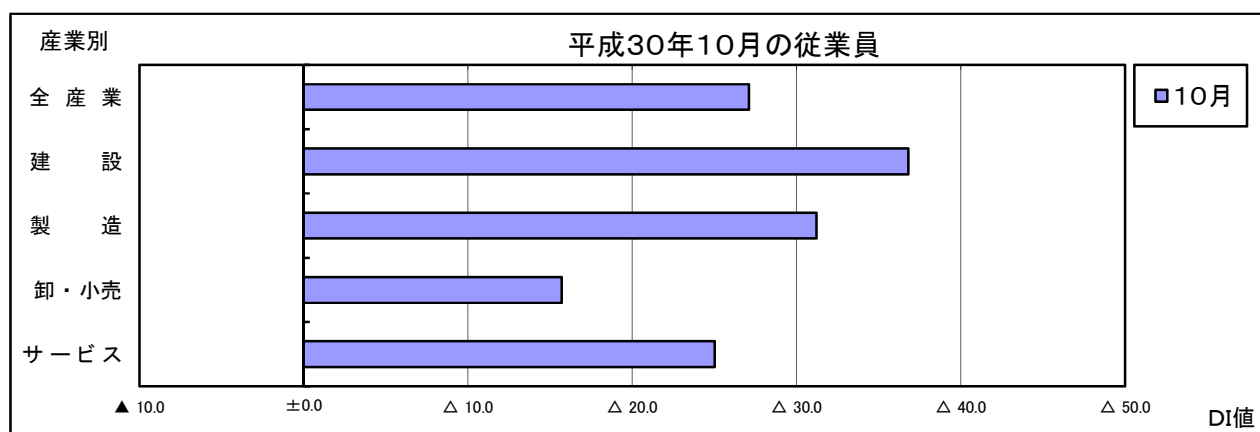
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△31.2(同△6.2)、建設業△36.8(同△33.3)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△15.7(同△23.8)、サービス業△25.0(同△26.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△28.5(前月水準△31.4)となり、プラス幅が2.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△25.0(同△12.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△15.7(同△28.5)、サービス業△25.0(同△33.3)、建設業△47.3(同△50.0)である。

平成30年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	△21.1	△28.1	△19.7	△17.1	△22.8	△27.1	△28.5(△31.4)
建設	△21.0	△35.0	△26.3	△29.4	△33.3	△36.8	△47.3(△50.0)
製造	△35.7	△30.7	△18.7	△21.4	△6.2	△31.2	△25.0(△12.5)
卸・小売	△8.6	△17.3	△9.0	△8.3	△23.8	△15.7	△15.7(△28.5)
サービス	△26.6	△33.3	△28.5	△13.3	△26.6	△25.0	△25.0(△33.3)



【平成30年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲7.1)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。

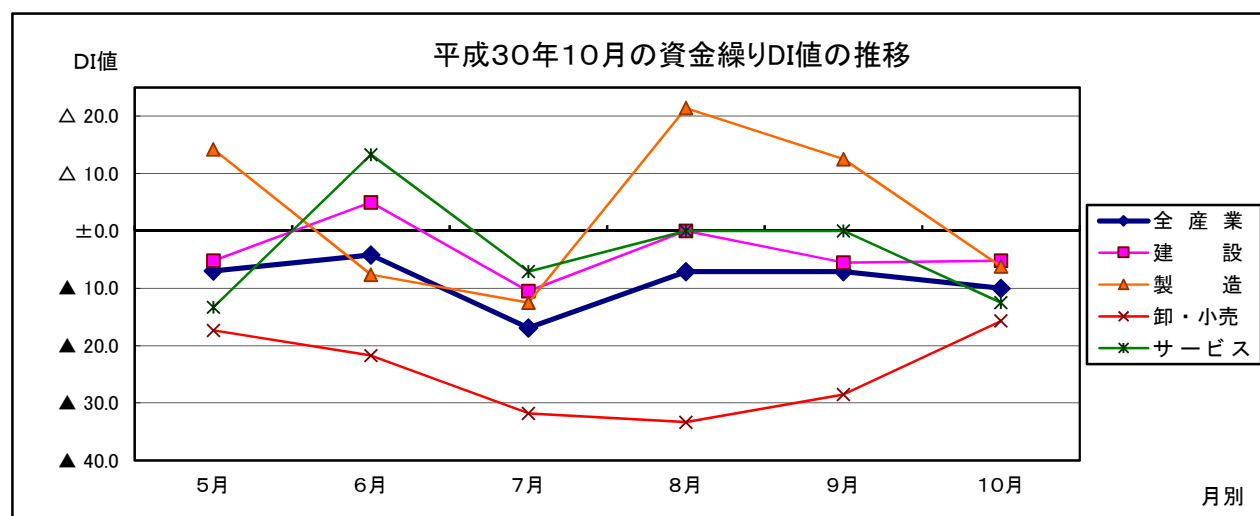
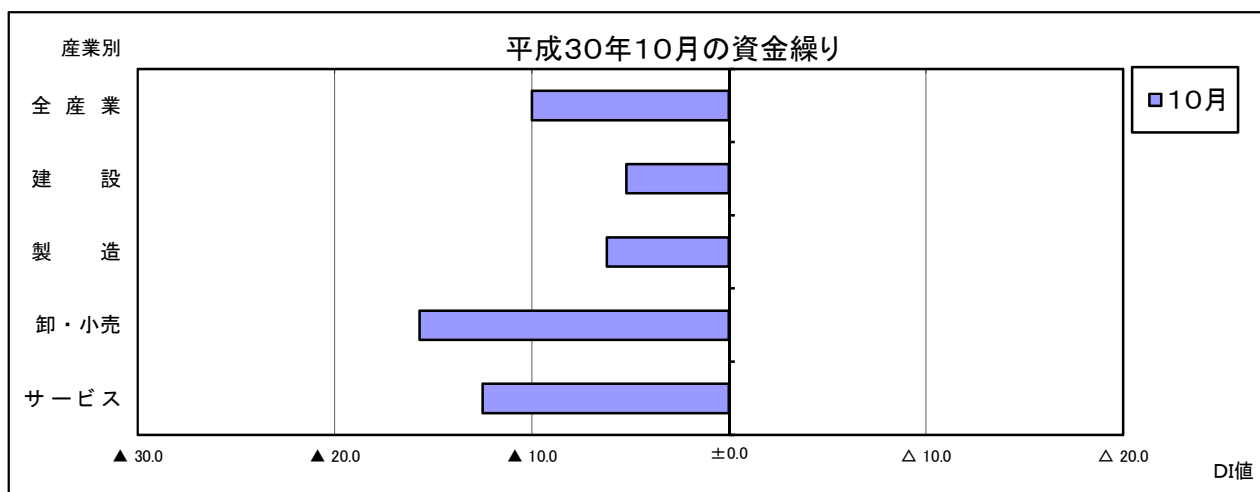
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲15.7(同▲28.5)、建設業▲5.2(同▲5.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.2(同△12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲12.5(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲5.7)となり、マイナス幅が2.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲6.6)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲31.5(同▲19.0)である。

平成30年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成30年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲7.0	▲4.2	▲16.9	▲7.1	▲7.1	▲10.0	▲8.5(▲5.7)
建設	▲5.2	△5.0	▲10.5	±0.0	▲5.5	▲5.2	±0.0(△5.5)
製造	△14.2	▲7.6	▲12.5	△21.4	△12.5	▲6.2	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲17.3	▲21.7	▲31.8	▲33.3	▲28.5	▲15.7	▲31.5(▲19.0)
サービス	▲13.3	△13.3	▲7.1	±0.0	±0.0	▲12.5	±0.0(▲6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.0	▲ 11.4	▲ 14.2	▲ 17.1	▲ 45.7	▲ 27.1	△ 27.1	△ 28.5
建設	▲ 26.3	▲ 10.5	▲ 31.5	▲ 15.7	▲ 47.3	▲ 36.8	△ 36.8	△ 47.3
製造	△ 18.7	△ 6.2	△ 18.7	±0.0	▲ 37.5	▲ 12.5	△ 31.2	△ 25.0
卸・小売	▲ 21.0	▲ 36.8	▲ 26.3	▲ 36.8	▲ 52.6	▲ 31.5	△ 15.7	△ 15.7
サービス	▲ 6.2	±0.0	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.8	▲ 14.2	▲ 10.0	▲ 8.5
建設	▲ 10.5	▲ 5.2	▲ 5.2	±0.0
製造	△ 6.2	±0.0	▲ 6.2	±0.0
卸・小売	▲ 36.8	▲ 47.3	▲ 15.7	▲ 31.5
サービス	▲ 6.2	±0.0	▲ 12.5	±0.0

【平成30年10月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	トピック	業種
建設	来年の消費税UPの発表により、駆け込み需要の兆しが早くも現れ始めました。	消費税増税	一般土木建築工事業
	業況は好転しているように見えるが、実情は厳しく、諸経費・雑費の増加で利益が減少だが品質保持に努める。	経費増加 利益減少	電気工事業
	9月決算の当社、初の決算賞与を職人さんに出すことが出来ました。これからも心を引き締めて暖かい量を届けていきたいです。	初の決算賞与	内装工事業
	この調査票の回答件数が少なく再度の要請とありましたが、その状況が何となく解るような気がします。質問事項が業種によってかなり違いがあり、例えば弊社は住宅会社ですが、前年との比較で、売上高は1か月ペースでピックアップできますが、その他は1か月の短期間で回答を出すのは難しいと思います。また、3か月間の見通しでも同じことが云えます。商工会ではデータを取りたいのかもしれませんが、データを出す方にメリットが見られません。勝手な言い分ですが、もう少し出てきたデータが参考になるといいですね。	調査票意見	一般土木建築工事業
	5月からずっと売上減少となっている。工程元気により一時的に忙しい時はあるものの、全体的に忙しさは感じられない。ダラダラと施工が進んでいるような感じで、同業他社も忙しさは無いと言う。材料仕入れ先、外注先からも仕事が無いからと営業電話が多い。毎年年末に向け職人さんの手配が大変な時期だが、今年は比較的段取りがスムーズに行っている。その分売上の伸びも無さそう。	売上減少	その他の職別工事業
製造業	下期に入り先行して冬季需要の準備のための受注が増え、生産、出荷が増となり、製品によっては一時的にバックオーダーを抱える状況になった。慢性的な人手不足が原因で、安定的な注文が見込めないところがあり、ここ数年、少しずつではあるが売上が落ちてきている客先がある。	受注増加 人手不足	自動車付属品製造業
	医療向け建材の受注見通しが不透明。輸入製品の影響も考えられる。原料価格に大きな変動はない。	先行き不透明	特殊産業用機械
	ナフサの価格高騰等により原材料、購入品の多くが値上げされる状態が続いている。	経費増加	機械・同部品製造業
	こここのところ業況は経済優先の政策、改革流れとされているが、下支えの零細企業には明日をも知れぬ感懐がある。	先行き不透明	印刷業
	イベントが年末に向けて動き出した感がある。	年末について	印刷業
卸小売	9月天候不順により大幅下落したが、その分取り戻した感がある。秋1番商品は残し気味。10月下旬よりジワジワ客が増えてきた。	売上増加	婦人・子供服小売業
	様々な要因で色んな原材料の高騰が続いている。年末に向けての懸念材料。	経費増加	菓子・パン小売業
	思った以上に国産新酒ヌーボーは前年通りの売上だが、一般定番品の受注が落ちてきている。10月はイベントが多い月なので、家飲みが減った可能性が考えられる。	受注減少	食料・飲料卸売業
	賑わいはあるが客単価が下がっている為、全体の売上は落ち込んでいる。複数税率についての対応が今から不安。	売上減少 消費税増税	各種商品小売業
	都内の工事が増加しているが、いつまでか。	先行き不透明	他に分類されない卸売業
	採用の計画はしているものの、応募者数が非常に少なく人員不足の状況が続いている。食品は価格に対して非常に敏感に反応がある。	人手不足	各種商品小売業
サービス業	天候不順などによる原材料の仕入れ単価上昇。今後にも不安。	経費増加	日本料理
	軽油単価の高止まりが収益に影響している。ドライバー不足は変わらず。	経費増加 人手不足	一般貨物自動車運送業
	秋になってからお客様や、同業者からの引き合いが増えてきています。価額に割安感がある物件は売れ行きも早いです。土地に対する需要は強い。また事業用の物件の買い希望も根強くあります。全体として動きが出てきました。	売上増加	不動産管理業
	仕事案件多め、ただ先々不安は隠せず。	受注増加 先行き不透明	ソフトウェア業
	8月9月とやっと前年対比クリアーできましたが、10月は売上の大幅な減少になってしまった。居酒屋【当店】において祭日等、お客様の客単価、客数とも減少してしまいました。11月分は開店セールまで売上を確保したい。	売上減少	酒場・ビヤホール
	賃貸家賃相場は商業系、住居系共に安定しています。当時の下げ圧力は感じません。	売上安定	不動産賃貸・管理業
	柏駅周辺の不動産賃貸は順調です。建物は使ってなんぼです。本当にそごう跡地はもったいない。	売上安定	不動産賃貸業
	米中貿易戦争、その裏に潜む不気味な世界的政争の現実。完全に冷たい逆風が日本にも感じられる10月景気になってしまった。10月、日銀はETFを過去最高の8,688億円買い過去最高を記録した。累計30兆円に達する。また海外にも大量買いをしている。個人的に米、中、日本(日経10月2日の24,448円)株価は最高値?売却も考える時期であろう。(奇遇感)中国関連日本地方関連企業も災害以外影響し始め再度バランスシートを一考する時期。安倍政権歓迎だが、憲法改正、労働者問題、消費税問題、注力ではアベノミクス軽度化に。12月来年度は借入減債、身軽な経営姿勢に変化、現実を見つめないと我が身に迫る環境になろう。	先行き不透明	投資顧問

◎先行き不透明

各業種より、「医療向け建材の受注見通しが不透明。輸入製品の影響も考えられる」(特殊産業用機械)、「業況は経済優先の政策、改革流れと思われているが、下支えの零細企業には明日をも知れぬ感懷がある」(印刷業)、「都内の工事が増加しているが、いつまでか」(卸売業)、「仕事案件多め、ただ先々不安は隠せず」(ソフトウェア業)、「米中貿易戦争、その裏に潜む不気味な世界的政争の現実。完全に冷たい逆風が日本にも感じられる10月景気になってしまった。12月来年度は借入減債、身軽な経営姿勢に変化、現実を見つめないと我が身に迫る環境になろう」(投資顧問)との声が寄せられた。

◎経費増加

各業種より、「業況は好転しているように見えるが、実情は厳しく、諸経費・雑費の増加で利益が減少。品質保持に努める」(電気工事業)、「ナフサの価格高騰等により原材料、購入品の多くが値上げされる状態が続いている」(機械・同部品製造業)、「様々な要因で色んな原材料の高騰が続いている。年末に向けての懸念材料」(菓子・パン小売業)、「天候不順等による原材料の仕入れ単価上昇。今後にも不安」(日本料理)、「軽油単価の高止まりが収益に影響」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

平成30年10月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.8に対し、「CCI-LOBO」が▲17.2で柏の方がマイナス幅が4.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲13.6で柏の方がマイナス幅が3.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.2に対し、「CCI-LOBO」が▲17.9で柏の方がマイナス幅が3.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.7に対し、「CCI-LOBO」が▲41.9で柏の方がマイナス幅が3.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△27.1に対し、「CCI-LOBO」が△24.4で柏の方がプラス幅が2.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲9.2で柏の方がマイナス幅が0.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業・卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。

平成30年10月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.8	 ▲ 10.5	 6.2	 ▲ 36.8	 ▲ 6.2
CCI—LOBO	 ▲ 17.2	 ▲ 10.7	 ▲ 10.2	 ▲ 29.3	 ▲ 15.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 10.0	 ▲ 26.3	 18.7	 ▲ 21.0	 ▲ 6.2
CCI—LOBO	 ▲ 13.6	 ▲ 10.4	 ▲ 6.6	 ▲ 25.4	 ▲ 13.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 14.2	 ▲ 31.5	 18.7	 ▲ 26.3	 ▲ 12.5
CCI—LOBO	 ▲ 17.9	 ▲ 11.9	 ▲ 15.7	 ▲ 27.7	 ▲ 17.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 45.7	 ▲ 47.3	 ▲ 37.5	 ▲ 52.6	 ▲ 43.7
CCI—LOBO	 ▲ 41.9	 ▲ 43.4	 ▲ 47.6	 ▲ 36.1	 ▲ 38.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 27.1	 36.8	 31.2	 15.7	 25.0
CCI—LOBO	 24.4	 31.4	 20.0	 23.9	 27.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 10.0	 ▲ 5.2	 ▲ 6.2	 ▲ 15.7	 ▲ 12.5
CCI—LOBO	 ▲ 9.2	 ▲ 5.3	 ▲ 8.7	 ▲ 17.3	 ▲ 9.1

は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成30年10月16日～22日

調査対象：全国の423商工会議所が3735企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、回復に遅れ。先行きは不透明感を拭えず、横ばい圏内の動き

10月の全産業合計の業況DIは、▲17.2と、前月から▲1.2ポイントの悪化。台風21号や全国的な異常気象の影響による農産物の出荷量減少・価格上昇により卸売業の業況感が悪化した。中小企業の景況感は、産業用機械や自動車、電子部品関連、建設業の堅調な動きに下支えされているものの、燃料費・原材料費の上昇や深刻な人手不足、最低賃金改定による人件費の上昇、根強い消費者の節約志向が足かせとなっており、回復に遅れがみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲16.8（今月比+0.4ポイント）とほぼ横ばいを見込む。秋の行楽シーズンや年末年始の商戦を契機とする消費の持ち直しやインバウンドを含めた観光需要拡大、生産・設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不

足の影響の深刻化や、燃料費・原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、米国の保護主義的な関税措置に端を発する貿易摩擦、消費増税の影響を懸念する声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、小売業で改善、製造業でほぼ横ばい、その他の3業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事が減少しているにもかかわらず、人手不足の深刻化から受注を見送らざるを得なくなり、売上は悪化した。鉄鋼を始めとする建設資材価格の高止まり等により、採算の確保にも苦戦している」（管工事業、

「工場や事業所建設などの民間工事が多く、売上は改善。さらなる売上増を図るた

め、建設機械等の新規設備投資を実施した」（一般工事業）

【製造業】「アジア向けを中心に輸出は堅調。しかし、中国経済の減速など、米中貿易摩擦の影響が顕在化しつつあり、先行きの不透明感は拭えない」（自動車部品製造業、

「ナフサ価格の上昇から原材料の値上げが相次ぎ、収益が圧迫されている。しかし、受注減を懸念して、価格転嫁には踏み切れない」（プラスチック製品製造業）

【卸売業】「台風や全国的な異常気象の影響から、レタス・キヤベツ等の生鮮野菜の価格が高騰していることに加え、高値による消費者の買い控えもあり、採算・売上ともに悪化した」（農産物卸売業、

「企業の設備投資需要を背景に、受注増が続いている。今後も安定した受注が見込めるため、人員増強を図り、さらなる売上改善を目指す」（電気機械卸売業）

の影響で減っていた来店客数が戻りつつあり、特にインバウンド需要は、ほぼ被災前の水準まで回復した」（医薬品等小売業、

「消費者の節約志向から、秋物商戦が低調で、売上は悪化。来年10月に予定される消費増税・軽減税率制度に対応したレジの導入も急がねばならず、資金繰りにも苦慮している」（飲食料品小売業）

【サービス業】「秋の観光シーズンを迎え、客数増を期待していたが、3連休に台風25号が直撃し、予約のキャンセルが出てしまった。農産物価格の高騰や、最低賃金の上昇により、採算も悪化した」（宿泊業、

「自動車部品等を中心に製造業からの配送依頼が多く、売上は改善。これを機に賃上げや福利厚生の充実等を図り、人手不足の解消につなげたい」（運送業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲13.6	▲14.8	▲5.8	▲19.4	▲26.5	▲7.6
6月	▲15.4	▲10.1	▲6.5	▲17.1	▲32.3	▲12.8
7月	▲16.7	▲11.5	▲11.5	▲18.8	▲29.0	▲13.6
8月	▲14.8	▲8.1	▲11.4	▲16.1	▲27.7	▲11.7
9月	▲16.0	▲7.6	▲9.6	▲17.8	▲31.4	▲13.9
10月	▲17.2	▲10.7	▲10.2	▲24.9	▲29.3	▲15.2
見通し	▲16.8	▲12.3	▲11.0	▲20.4	▲29.0	▲14.0

柏の景気情報

(10月の調査結果のポイント)

調査期間：平成30年10月26日～11月5日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲6.6
6月	▲21.1	±0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
7月	▲30.9	▲21.0	▲25.0	▲54.5	▲14.2
8月	▲11.4	▲5.8	△7.1	▲37.5	△6.6
9月	▲20.0	▲22.2	▲12.5	▲33.3	▲6.6
10月	▲12.8	▲10.5	△6.2	▲36.8	▲6.2
見通し	▲14.2	▲5.2	±0.0	▲47.3	±0.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

「柏市」の業況

業況DIは回復傾向。先行きも不透明感残すが回復の動き

10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が7.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.2(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に建設業▲10.5(同▲22.2)、サービス業▲6.2(同▲6.6)

である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲36.8(同▲33.3)である。

【建設業】からは、「消費税UPの発表により、駆け込み需要の兆し」(一般土木建築工事業)、「9月決算の当社、初の決算賞与を職人さんに出すこと」が出来た。これからも心を引き締めて暖かい昼を届けていきたい」(内装工事業)、「調査票の件。質問事項が業種によってかなり違い、1か月の短期間で回答を出すのは難しい。商工会ではデータを取りたいのだから、もう少し出てきたデータが参考になるといい」(一般土木建築工事業)、「5月からずっと売上減少。一時的に忙しい時はあるものの、全体的に忙しさは感じられない。ダラダラと施工が進んでいるような感じで、同業他社も忙しさは無いと言う。材料仕入れ先、外注先からも仕事が無いからと営業電話が多い。毎年年末に向け職人さんの手配が大変な時期だが、今年は比較的段取りがスムーズ。その分売上の伸びも無さそう」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「冬、需要の準備の為に受注が増え、生産、出荷が増加。製品によっては一時的にバックオーダーを抱える状況に。慢性的な人手不足が原因で安定的な注文

が見込めないところがあり、ここ数年少しずつではあるが売上が落ちてきている客先がある」(自動車付属品製造業)、「イベントが年末に向けて動き出した感がある」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「9月の天候不順により大幅下落した分、取り戻した感がある。秋1番商品は残し気味。10月下旬よりジワジワ客が増加」(婦人・子供服小売業)、「国産新酒ヌーボーは前年通りの売上だが、一般定番品の受注が減少。10月はイベントが多い月。家飲みが減った可能性がある」(食料・飲料卸売業)、「賑わいはあるが客単価が下がっている為、全体の売上は落ち込んでいる。複数税率について対応が今から不安」(各種商品小売業)、「採用の計画はしているものの、応募者数が非常に少なく人員不足の状況。食品は価格に対して非常に敏感に反応がある」(各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「ドライバーク不足は変わらず」(一般貨物自動車運送業)、「秋になってからお客様や、同業者からの引き合いが増加。価額に割安感がある物件は売れ行きが早く、土地に対する需要も強い。事業用の物件の買い

希望も根強い。全体として動きが出てきた」(不動産管理業)、「賃貸家賃相場は商業系、住居系共に安定。当時の下げ圧力は感じない」(不動産賃貸・管理業)、「柏駅周辺の不動産賃貸は順調。建物は使っでなんぼ。本当にそこ跡地はもったいない」(不動産賃貸業)、「8月9月とやと前年対比クリアできたが、10月は大幅に減少。祭日等、お客様の客単価、客数とも減少した。11月分は開店セールまで売上を確保したい」(酒場・ビヤホール)などのコメントが寄せられた。

10月の景気キーワード

先行き不透明

各業種より、「医療向け建材の受注見通しが不透明。輸入製品の影響も考えられる」(特殊産業用機械)、「業況は経済優先の政策、改革流れと思われているが、下支えの零細企業には明日をも知れぬ感懐がある」(印刷業)、「都内の工事が増加しているが、いつまでか」(卸売業)、「仕事案件多め、ただ先々不安は隠せず」(ソフトウェア業)、「米中貿易戦争、その裏に潜む不気味な世界的政争の現実。完全に冷たい逆風が日本にも感じられる10月景気になってしまった。12月来年度は借入減債、身軽な経営姿勢に変化、現実を見

つめないと我が身に迫る環境になろう」(投資顧問)との声が寄せられた。

経費増加

各業種より、「業況は好転しているように見えるが、実情は厳しく、諸経費・雑費の増加で利益が減少。品質保持に努める」(電気工事業)、「ナフサの価格高騰等により原材料、購入品の多くが値上げされる状態が続いている」(機械・同部品製造業)、「様々な要因で色んな原材料の高騰が続いている。年末に向けての懸念材料」(菓子・パン小売業)、「天候不順等による原材料の仕入れ単価上昇。今後にも不安」(日本料理)、「軽油単価の高止まりが収益に影響」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-100)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲12.8に対し、「CCI-100」が▲17.2で柏の方がマイナス幅が4.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。